

The Japan Interior
Designers Association
Monthly Report
No.252
Apr, May, Jun, 2011

JID news

JID月報：通巻252号
平成23年 4月・5月・6月号
発行日：平成23年6月30日

発行：(社)日本インテリアデザイナー協会
〒163-1008 東京都新宿区西新宿3-7-1
新宿パークタワー8F
電話03-5322-6560 FAX03-5322-6559
発行人：喜多 俊之

社団法人日本インテリアデザイナー協会

目次

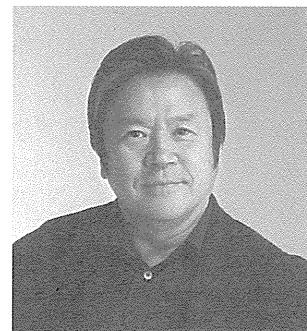
巻頭：新しい事業年度に向けての方針	復興支援活動報告	2
	公益法人制度改革相談会報告	3
	本部報告（国際委員会）	4
	本部報告（総務委員会）	4
	支部活動報告（関東事業支部）	5
	〃（中部事業支部）	5-6
	〃（関西事業支部）	6-8
	〃（九州事業支部）	8
	事務局からのお知らせ	8-9
	今井滋さんを偲んで	10
	お知らせ	10

新しい事業年度に向けての方針

理事長 喜多 俊之

先ずは、全員で会員の増強に取り込もう！

今年JIDの方針として先ずは会員の増強です。多くの若い会員や賛助会員を増やしたい。
そして、企業の皆さんとの交流も含め、会員の交流を深めるためのパーティなど多くのイベントを実施し、本来のJID活動に戻すことを打ち出したい。
対外的にはJIDとしての情報をWebを活用しての発信や、JID賞のアワードを再度考慮し、しっかりと部門別に賞を設けるべきと考える。



ホームインテリア、公共空間、商業空間、オフィス空間など、更に人の交流や子供の教育など、内需拡大の土壌としての住環境の向上が急がれる今、住空間フォーラムが開催出来れば素晴らしい。

また、低迷するインテリア産業界にあって毎年四月に行われるミラノサローネなどへの見学会やタイや韓国、中国などアジアにおける活気のある住宅を含むインテリア産業界の現状視察や現地のデザイナー・経営者とのフォーラムなども計画したい。

会員増強と本来のJIDを目指して、今年度は大きな方針の基に全員で実行出来ればと考えている。

これらのことを理事会で話し合い、理事全員が共有し実行したい。

是非、会員皆様のご協力をお願いするところです。

日本のインテリア界の更なる向上と、私たち皆んなの心豊かな暮らし、そして世界に誇れるセンスの向上を目指したいと願っています。

東日本大震災に対する義援金の報告

3月22日～4月20日の募集期間で29名の方々より235,293円の寄付があり、全額日本赤十字社に寄付致しました。皆様有難うございました。

尚、当協会が募金団体として税務当局より確認をされました。今後も義援金の呼びかけを引き続き継続することを23年度第1回理事会において了承されました。

喜多理事長が被災地に段ボール製間仕切りと棚100セットを送られました

震災直後、避難所生活のテレビ映像を見て何とかしたいと思いいから、段ボール製の簡単な間仕切りと棚を考え知人の段ボール会社に試作品をつくってもらいました。

たまたま取材に来られていたイギリスのAP通信社の記者を通じて現地へ試作品を届け、直ぐに欲しいとの要望を受けて100セットを製作。

まだ輸送手段の困難な最中、バンドウ氏の努力によってなんとか現地に届けることができました。

彼の積極的な行動力とボランティア精神に感心すると共にこの様な非常時には「スピード」の大切さを改めて思い知らされました。

避難所におけるプライバシーの確保は、寒さを凌ぐ衣料や食品と同様大変重要な要素です。

仮設住宅の供給が追いつかない今、もっとプライベートな空間が必要である。そのモデルも完成間近となった。

後日、被災者代表の方から丁寧なお礼状をいただき逆にこちらの方が恐縮している次第です。(談)



D8/JID復興支援活動の報告 デザイナーズ・チャリティー 「D8/Da 3.11」へのご協力をお願いします

担当理事 中田重克

D8/Da 3.11委員会委員長 木村戦太郎



日本デザイン団体協議会(D-8)では、3月11日に発生した東日本大震災を受け、4月18日に「震災復興情報交換会」を開催した。出席者は、経済産業省製造産業局デザイン・人間生活システム制作室 広瀬室長、小林係長、公益財団法人日本デザイン振興会(JPD) 矢島事業部長、D-8全協会から会長、事務局長などが複数参加し、JIDからは中田副理事長と峰尾事務局長、私が参加した。

開会に際し経産省・広瀬室長の挨拶があり、デザイン団体としての復興支援に取組んで欲しいこと、支援に関する議論の場として「Design for Japan」を立ち上げた事などが説明された。さらに各協会から復興支援の企画案・被災会員の状況などが説明され、JIDA、JAGDAでは被災した東北会員が多い事、SDA、DDAでは被災地での業務に携わる会員が居り、被災地との交流が始まっている事などが報告された。最後にD-8として復興支援WGを立ち上げる事を決め、JIDでは私が担当となり、4月26日に第1回WG会議を開催して、私がWG座長に指名された。

会議で決めた事は、

- 各協会が夫々で行う方が相応しい企画は夫々で進める。
- 協力した方が効果的な企画はD-8主催とするが、その場合は、幹事団体が中心となり、他団体が協力する。
- D-8主催となる企画案は

1. JIDA「あしなが基金」東北のデザイン学生支援
2. SDA「メッセージポスター」「サインポール」企画
3. JID「Da 3.11」幾つかの団体も賛同の予定

5月のJID理事会で私が本件担当となる事が承認され、6月8日に「Da 3.11」準備委員会を開催した。

8団体との交渉時間を考慮し、実施時期を11月初旬とすること。6月中に企画をまとめ各協会に情報発信し、8～10月で申込、集荷、値付け、最終仕分けの予定。8団体以外の賛同者・団体にも呼掛ける等の基本方針を決めた。

実施に向けた皆様のご協力、宜しくをお願いします。

公益法人制度改革相談会報告

理事 石川 尚

去る5月9日、公益法人協会の相談会に出席しましたのでご報告致します。この内容は第43回通常総会にて報告いたしました。

結論から述べますと、『当協会が公益社団法人に申請・認定されることは、高いハードルではない。』ことが分かりました。認定は内閣府。今理事会では、第40回通常総会において「当協会は公益法人へ申請する可能性を前提とする」を順守すべく、申請に伴う作業に入る予定です。

公益法人制度改革相談会詳細

- ・日時：平成23年5月9日(月) 17:00～18:00
- ・場所：野村證券本店(日本橋野村ビル)7階ホール
- ・相談担当係官：公益財団法人 公益法人協会 相談室 専門委員 山本盛明氏
- ・出席者：理事：石川 尚 / 酒井正人 監事：泉 修二 事務局長：峰尾 武
- ・事前提示資料 相談申込票/協会定款/H22年度貸借対照表・収支計算書(事務局：峰尾氏対応)

相談申込票に記載した質問事項について

A / 総論 申請及び認定後について

公益社団法人に申請・認定後、諸条件を満たせず公益法人不認定の判断が下された場合、どうなるのか？

(担当者)→即、認定取消しはない(民法29条、暴力団と関わる等刑事上犯罪的行為発生の場合は解散)。認定後、年度毎の監査で公益法人にふさわしくないと判断されても即、解散はない。注意、勧告、是正等、その後の事業活動推移の過程において判断。

仮に不認定の場合は、一般社団法人へ移行可能。

B / 機関設計のあり方について

公益社団法人の場合、現在ある支部の形態はどうなるか？

(担当者)→事業内容を整理し、事業収支会計を一本化することであれば、問題はない。

C / 事業のあり方について

専門的なセミナー、展示会は公益事業として認められるか？

(担当者)→広く一般を対象(もちろん、専門家も含む)とし、告知、事業するのであれば、問題はない。

事業形態を例えば試験制度やセミナー制度などに絞るのが経営的に楽だとしても、事業の種類や中を広げることに差しかえはない。

※当日の相談質問事項について担当者の弁

事前資料を精査すると、一般社団法人でよいのではないかと思います。但し、本日貴協会の目的(定款第3条)、理念等を伺い、貴協会の強い意志のもと公益社団法人を目指すならば、問題はない。

上記を踏まえた上で、申請に伴う必至の前提条件は以下の通り

01 公益社団法人申請に伴う一般会計表資料作成(事業収支区分の仕分けおよび再集計)が重要。

↑協会の将来像による事業構成を考慮の上、事業別、支部経費も含め、ガイドラインに則した会計処理。

02 事業事項を整理、まとめる。

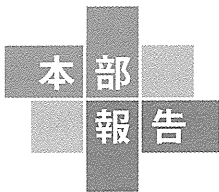
↑経理会計処理の簡素化を図る為、類似事業事項にまとめる。(公益目的事業別)

03 申請、審査・認定、登記のスケジュールを守る。

↑例：秋申請 → 審査・答申(申請から許可は3ヶ月程度) → 翌春認定・登記(認定から2週間以内の登記が必要) ※一般社団の場合、申請・許可は2ヶ月程度。

公益法人制度改革委員会

喜多俊之・安藤真吾・中田重克・石川 尚・岩倉栄利・小野由記子・川上玲子・川崎泰秀・木辺智子・酒井正人・佐藤健一



国際委員会

担当理事：岩倉 榮利・酒井 正人
委員長：高田 公平

IFI台北ツアー開催のお知らせ

国際委員会委員長 高田 公平

近々にIFI台北ツアーの募集を開始いたします。

IDA(International Design Alliance) CongressおよびTaipei World Design Expoが台北で開催されます。

IFIもこの会議に参加するため、JIDも日本のIDA関連4団体合同での参加を決めました。JAGDA(日本グラフィックデザイナー協会)、JIDP(日本デザイン振興会)、JIDA(日本インダストリアルデザイナー協会)とJIDが協力して、IDA JAPAN TEAMとして参加します。10月23日～10月27日までの5泊6日の予定で、(株)ユナイテッドツアーズにお願いしてIDA JAPAN TEAMで(4団体合同)のツアーを実施いたします。

世界中のデザインが集まるワールドデザインエキスポの視察や様々なオプションツアーを計画しています。(ex.TDCのニューオフィス見学、ノバ・デザイン訪問、IT機器メーカーBenQ訪問、自転車メーカーGiant Manufacturing訪問など調整中)皆さんふるって応募してください。

往復全日空 宿泊ホテルはグランドハイアット。

7月20日に応募締め切り。



総務委員会

担当理事：佐藤 健一
委員長：伊藤 公一

第43回通常総会の懇親会報告

【通常総会議事録別紙】

総務委員会委員 秋山 修治

5月27日(金)午後6時30分より通常総会後に恒例の懇親会が開催されました。

類例のない大きな被害をもたらした東日本大震災後でもあり開催を憂慮された時期もありましたが、より一歩踏み出す力が求められるという認識で通常通り懇親会が開催されました、会の終盤には峰尾事務局長より、JIDの東日本大震災への義援金についての報告などもありました。

懇親会は、伊藤総務委員長、尾崎委員の進行で開始されました。まず、喜多理事長の挨拶で東北震災被災者の方々へのお見舞いに始まり、この震災に際しても日本の秩序、力が世界からも評価されていることに改めて自信を得るとともにインテリアデザインという仕事を通して我々は貢献して行かなければならない。今後は益々暮らし、住まいに重点が置かれた新たな日本の復興を目指さなければならないこと、めざましい発展を遂げるアジア諸国の住環境の発展、比して日本の暮らしへの改革や意識の低迷がこのまま続いて行く事への危機感について語られ、住まい・暮らしを大切にしたい社会基盤を築くための決意などについて述べられました。

経済産業省デザイン・人間生活システム政策室長 廣瀬毅様からは、震災へのお見舞いを述べられたあと経済産業省はさまざまなデザイン政策と世界に向けてのジャパンブランドの取り組みを行っており、低迷する産業界をデザインの力で牽引して頂きたい。今後ますますデザインの重要性が高まると共にJID各位、デザイン8団体(D-8)皆様の努力や協力に期待する旨のごあいさつを頂きました。

日本インダストリアルデザイナー協会理事長 浅香嵩氏の乾杯の音頭で宴が始まり、来賓の方々、会員各位が和やかに、また日本の復興へ向けての決意など思い思いに交流をされていました。賛助会員の参加も多く総勢80余名の方々で賑わいました。



総会後の懇親会で挨拶をされる喜多理事



来賓を代表してご挨拶をいただいた、経済産業省デザイン人間生活システム政策室長 廣瀬毅様
進行役の伊藤総務委員長、尾崎委員



乾杯のご発声をするJIDA浅香理事長(左)



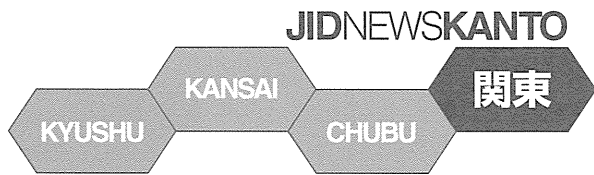
歓談風景



歓談風景



東北大震災義援金の報告をする峰尾事務局長



第18回関東事業支部総会報告

関東事業支部

支部長 井出 昭子

5月27日(金)、新宿パークタワー 8階OZONEセミナールームAにて池田和修氏開会宣言のもと第18回関東支部総会が開催されました。

開会に先立ち支部内規第19条により支部総会は支部正会員の5分の1以上の出席により成立するとあり、本日の正会員190名、5分の1は38名、出席者29名、委任状提出による出席者79名、合計108名で本総会は成立の報告がありました。引き続き井出昭子氏が指名を頂き議長に選任されました。その後、総会開会にあたり議長ご挨拶と共に『平成22年度総括』を冒頭に、第2号議案前に『平成23年度総括』を下記述べさせて頂きました。

『平成22年度総括』

支部長に選任後、また新組織役員体制の委員会活動が1年経過いたしました。平成22年度の支部長選任にあたり2つの指針を述べさせて頂きました。

1) "NEXT JID 我々は何をなすべきか"協会の在り方や向かうべき方向をできる限り協議し、支部会員の総意をまとめます(指針1部抜粋)
→平成22年度に公益法人制度改革特別委員会を設置、支部会員へ説明会、意識調査アンケート、調査結果報告会、委員会報告書配布を実施致しました。理事会へ報告書を提出後に委員会は解散しましたが、新公益法人制度の申請の移行期間中であることを会員の皆様と平成23年度も引き続き共通認識を持ちたいと思います。

2) 組織内統治に勤め、組織力の強化を目指します。

常にオープンで、いつでもウェルカムである組織運営で有る事。

→その1つとして『サロンJID関東・気軽に皆で語ろう会』を昨年9月14日に実施、50名の会員の皆様にご参加を頂き、短時間ではありましたがJID組織運営についてなど様々な意見を伺う事が出来ました。その際に全参加者から『サロンJID関東』継続の声を受け、平成23年度も開催予定です。

外部に向けては:JID関東の社会的貢献事業を統括し、本部・関東広報よりWebおよびメディアへリリースする機会を多く設け、JIDをアピール。ブランディングアップを計る。

→デザインセミナー日本の意匠『温故知新』物語2回、帝人様、神宮司庁の特別協力を頂き総勢198名、デザイン職人四方山話(講師:喜多理事長)62名、また大阪でのリビング&デザイン展『こちよさをつくるケア×デザイン展』企画運営協力およびシンポジュームの開催、JAPANTECH2010、NIF出展『JIDこどもインテリアデザイン学校』パネル展示参加など、いずれも外部より多くの聴講者、来場者を頂きました。『こどもクリエイティブ』受託支援事業の実施、JID関東ホームページ、メディア広報活動、Web活用リリースも実施、平成22年度は、JID外部との連携事業に積極的取り組んだ

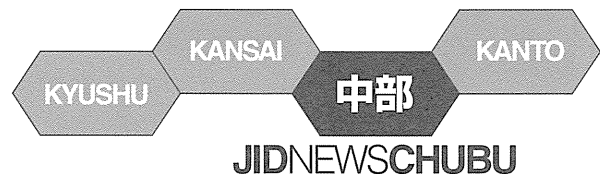
各委員会事業実績は、JIDアピール、ブランディングアップに大きな成果をもたらしました。皆様の活動へのご協力ありがとうございました。

『平成23年度総括』

会員相互の情報交流などホームページやネットワークの確率充実が急務である様に思います。協会ホームページネットワークシステムの一元化を目指し、3月11日の東日本大震災以降、日本人のエネルギーや環境に対する考え方が大きく変わろうとしている中、異業種交流などJID活動の場を国内外に拡げ、日本の産業のため人々の豊でより良い生活を実現するため、将来の日本の担い手である子供達の教育など、デザイン啓蒙活動を通じてよりいっそう貢献すべく社会に責任あるJIDでありたいと考えています。その為にも平成23年度も皆様の活動に期待をしています。どうぞよろしくお願い致します。

議案はいずれも質疑応答後、拍手多数よって議決され、第18回支部総会は閉会いたしました。総会にご出席及びご協力をいただき感謝いたします。

より多くの支部会員の意向をお聞きし、関東事業支部活動の向上をはかって参りたいと思います。今後もご協力の程よろしくお願い申し上げます。



平成23年度 支部総会開催と北陸部会との 交流・懇親会及び研修会

中部事業支部

支部長 小林 修

今回の支部総会は、日頃顔を合わせる事が少ない北陸部会員との交流・懇親を目的の一部として北陸部会の方に大変ご尽力いただき、日本の名旅館100選にも選ばれる和倉温泉「加賀屋」での宿泊セットが用意されました。

合わせて地元の商工会議所を通じて「珪藻土の産地」と「田鶴浜建具の製作場」を訪ね、職人さんとの交流を行う事で「ものづくり探訪」事業までこなし、翌日には加賀屋のインテリア研修まで行ってしまう大変豪華で実りある企画となり、参加会員からは好評を得る事が出来ました。

又、交流・懇親会には「珪藻土産地」の(株)大成工業の坂本社長及び「田鶴浜建具組合」の永江建具製作所永江社長をお招きし、ものづくり苦労話〜地元企業とJIDとの接点を探るまで、多岐にわたる話題で大変盛り上がる交流・懇親会となりました。

＜支部総会＞

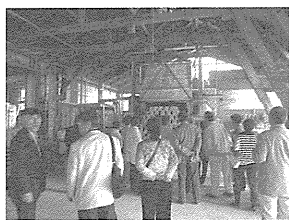
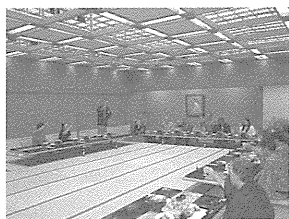
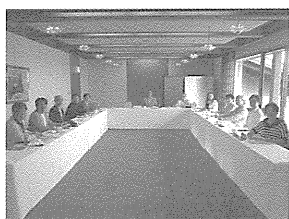
■日時 平成23年6月18日(土) 午後4時30分～6時

■場所 和倉温泉「加賀屋」セミナールーム

今年度の総会は、役員任期2年目の継続となり22年度事業の成果をふまえ、更なる事業の充実を計る事を会員相互の確認と承認が得られた。

＜交流・懇親会＞

ゲストを交え和やかな中に地元企業の方も交わりデザイン談義が盛り上がり有意義な交流・懇親会となりました。



JID中部・ワーロン社共同開催

学生コンペティションを終えて

中部事業支部

支部長 小林 修

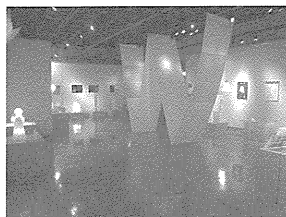
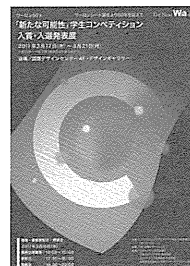
『新たな可能性』と題し、企業との共催による学生コンペティションの作品展覧会を3月17日～3月21日まで開催。前日には制作された実物モデル作品による最終審査が行われ、第一次審査通過入選者23点の中から最優秀賞・優秀賞・奨励賞・特別賞等の8点が選出され、当日の表彰式において多くの出席者から栄誉を称えられ、審査委員長である喜多俊之氏から賞金と盾が贈呈されたとき、学生の皆さんからは感激のあまりに涙を流す方もいて、主催者としての苦勞が報われた瞬間でした。

このコンペティションの企画はワーロンシート発売の50周年を記念する事業とリンクする形で進められ、ワーロンシートの持つコンセプトから次世代に向けて、斬新な感性と和の領域を超えた未来形を表現するデザインと素材の追求を学生達に向けて発信する事で、デザイン力の向上と世界でも活躍するデザイナーが育つ事を願うものでした。

この企画には東海地方の建築・デザイン系学校の先生方に変えてご理解とご協力を頂きながら審査委員長には喜多理事長をお迎

えし、提出された作品群の精度が予想を超えたものとなり、審査委員の協議も盛り上がり、コンペティションの委員長総評は学生への激励となり希望となりました。

展覧会は地元中日新聞の取材を受ける事となり、数多くの入場者を動員し、デザインセンターからも大いに評価を得られ、一地方事業支部として大きな成果と経験と新たな取り組みへの道筋がみえてきました。



JIDNEWSKANSAI



関西事業支部 平成23年度

総会・記念シンポジウム・交流会開催

関西事業支部

■総会報告

支部長 山本 紗代子

6月11日(土)大阪心斎橋のハートンホールにて、総会及び記念シンポジウムを開催いたしました。

司会、高瀬会員の開会宣言で総会の成立を報告(支部内規により会員数41名、定足数20.5名、出席13名、委任状9名、合計22名)。その後、議長に鈴木会員、書記に井上会員・酒井会員、議事録署名人に足永会員・景山会員を選出。

鈴木議長のもと、議事を進行。第1号議案から第4号議案までを無事に終了いたしました。

その後、安藤副理事長から通常総会の報告があり、今後の支部活動への示唆が感じられる新年度のスタートにふさわしいお話で総会を終えました。

引き続いて記念シンポジウムと交流会が行われ、昨年同様多数の参加者を迎えて盛大に行われました。

「関西から元気で楽しいインテリアデザインを！」が発信出来たのではないかと考えています。

喜多理事長をはじめ関係者の皆様に感謝し、ご報告いたします。



■記念シンポジウム報告

酒井コウジ

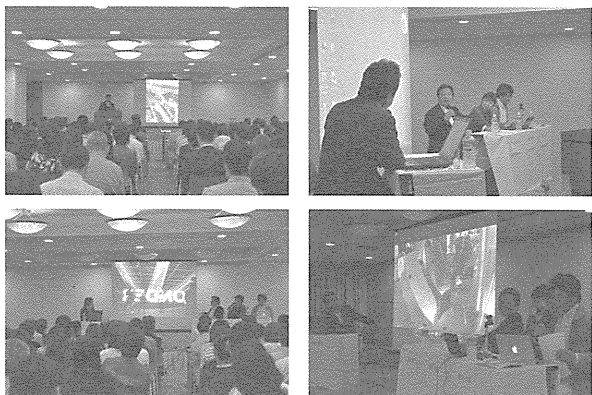
東日本大震災によって我国は甚大な被害を受けましたがこのシンポジウムを通じ、関西を中心に元気なインテリアムーブメントを起こせる機会になればと喜多理事長をはじめ会員一同が切に願い、総会に続いて記念シンポジウムを開催いたしました。話題の告知が功を奏して、企業、一般、学生を含めて125名参加による楽しいイベントになりました。

第1部の基調講演は喜多理事長により「時代を変えるインテリアデザイン」をテーマにイタリアと日本の住環境の違いやミラノサローネには50年の歴史があり、今や世界のインテリアデザインに大きな影響力を持って今日に至っている。

日本でも「住産業」の発展が重要で、デザインの役割が大きく貢献するので皆さん頑張りましょうと話されました。

第2部のパネルディスカッションは、安藤副理事長のコーディネートで「これからのインテリアデザインはもっと楽しい」をテーマにパネリスト喜多理事長、能口仁宏氏(堀江立花通ユニオン副会長、㈱大彌リビング代表取締役社長)、照明デザイナー長町志穂氏(株式会社LEM空間工房代表)の3名により、「ミラノサローネ2011レポート」として現地の写真を中心に、さらに能口氏撮影の映像も加わりそれぞれの立場でお話をされました。

皆で楽しい暮らしが出来るように活動し、インテリア業界を盛り立てていこうと言う事でシンポジウムを終えました。



■交流会報告

総務委員長 牧尾晴喜

シンポジウム終了後、南船場のビストロ「HAMAC de PARADIS (アマーク・ド・パラディ)」へ会場を移して交流パーティを行いました。

会員の他、企業関係、一般、学生と幅広く62名が参加。ご来賓挨拶は和服姿の経済産業省 近畿経済産業局サービス産業室長の田口一江様がされ、その後各デザイン団体代表のご紹介で交流会がはじまりました。

シンポジウムの余韻を残す中で、今回のイベントはジャズライブ。ヴォーカル川添光代さん、ギター塩本彰さん、ベース時安吉宏さんでオシャレな雰囲気を楽しみました。

シンポジウムのパネラー能口さんと長町さんがそれぞれ飛び入りでジャズを熱唱。あまりの芸達者なアドリブに参加者全員が大いに盛り上がりました。



第3回「素敵なくらしセミナー」報告

関西事業支部

研究セミナー委員会 鬼田 勲

第3回目の「素敵なくらしセミナー」は見学会を6月4日(土)参加者34名で行いました。

「F.L.ライト式インテリアを訪ねる」と題して、関西に残るライト式建築、インテリアの代表作、2件を見学。

- 甲子園ホテル 設計:遠藤 新(現:武庫川女子大学甲子園会館)
- 旧山邑邸 基本設計:F.L.ライト 実施設計、監理:遠藤 新(現:ヨドコウ迎賓館)

甲子園ホテルは東京の帝国ホテルと肩を並べる関西のホテルと言うこともあって、素晴らしいデザインでした。

F.L.ライトの愛弟子である遠藤 新の情熱のこもったデザインが随所に感じられ、遠藤の息づかいが伝わってきそうな迫力溢れる作品でした。



折り重なるような深みのあるフォルムの連続とタイル、レリーフテラコッタ、大谷石のリズミカルは組合せが心地よい。

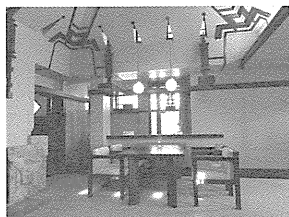
武庫川女子大学職員による説明に耳を傾ける参加者の皆さん

また、旧山邑邸は山の傾斜地になじむように配置された計画は、建築は「自然界における有機的構造」と位置づける彼の建築哲学を良く表しています、それはインテリアにおいて顕著になります、階を上がるごとに、あるいは廊下を曲がるたびに別の空間が展開する。それぞれに興味深い自然の採り入れ方が工夫されて実に楽しい。

また、ここ旧山邑邸では塚口眞佐子氏(JID正会員)によるライトの生涯についてミニレクチュアがありました。

作品の裏に隠れたライトの波瀾万丈の「虚」と「実」の話。・・・ライトの作品の真ただ中であって実に興味深い話でした。

二つの作品それぞれに1時間程の見学でしたが参加者の皆さんは、ライトの世界を堪能されました。



いろんな光の採り入れ方を楽しむ、4階の食堂



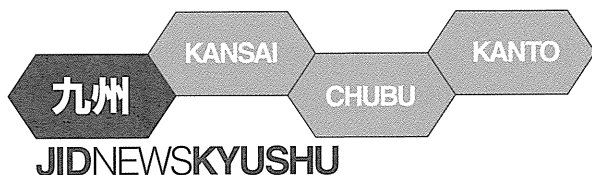
JR芦屋駅から徒歩で・・・ライト坂を登って山邑邸に到着。疲れた～！でも、敷地に入るなり、皆さんカメラを・・・。

後援団体及び企業

(財)大阪デザインセンター、(社)総合デザイナー協会、(社)関西インテリアプランナー協会、日本色研事業(株)、(株)ビビッドヴァン、大阪デザイン団体連合機構、日本インテリア学会関西支部、(株)都市建築、大光電機(株)、(株)昭和洋樽製作所



天才建築家ライトの素顔とは・・・？ライトの生涯について話をされる塚口さん。
この話の続きは「ライト仮面の生涯」に詳しく語られています。興味のある方はお読みください。
著者：ブレンダン・ギル
翻訳：塚口 眞佐子
発行所：(株)学芸出版社



支部総会が熊本で開催されました！ —新しい九州新幹線に乗って！—

九州事業支部

情報委員長 前崎 弥生

5月28日(土)15:00から、熊本市にある九州支部事務局(株)コモドデザインにて、平成23年度支部総会が開催されました。福岡や北九州地区の会員は新しい九州新幹線に乗っての参加になりました。会員8名(委任状6名)計14名の出席でした。支部長から「今年は大きなイベント開催の年ではないが、魅力あるJID九州とするために何か、を考えてみたい。会員がJIDに入って良かったと思われるように内容を充実して行きたい。」と挨拶がありました。総会では、平成22年度事業報告、会計報告と23年度事業計画(案)の承認、収支予算検討、組織担当役員の承認が行われました。

各議事の承認の後、支部長からの命題の実行案についての協議がされました。また、東日本大震災への日本インテリアデザイナー協会としての関わり方、アクトの会の進捗についての問題点、新会員の獲得について会のあり方など協議されました。

総会終了後には、熊本例会を開催し、熊本城に今年3月にオープンした城彩苑を見学しました。凸版印刷のトータルメディアが計画に関わっています。歴史文化体験施設(総合観光案内所と多目的交流室も含む)見て、聞いて、触って時空を超えたドラマを楽しむ物語御殿「湧く々座」と、肥後熊本の食と江戸時代の城下町を

再現した風情が味わえる飲食物販施設「桜の小路」の二つのゾーンが合体した新しい施設です。

夕暮れ時のライトアップされた「湧く々座」と「桜の小路」の街町並みを見学、懇親会の会場でもある和食処「桜道」にて熊本に伝わる伝統の古料理「花畑御膳」をいただきました。花畑御膳は、細川藩に仕えた料理頭、村中乙右衛門が記した、料理秘伝書「料理方秘」を基に、藩主が食した料理を再現したものです。おいしい料理に地ビールや熊本焼酎とあっという間に懇親会の時間が過ぎてしまいました。



事務局からのお知らせ

新会員 紹介 正会員

①会員名 ②会員番号(支部) ③推薦者 ④勤務先・事務所 ⑤自宅



① 堀 容子
ほりようこ

②1313(関東事業支部)
③石川 尚・木辺 智子

④(株)セイブデザインスタジオ
〒150-0012
東京都渋谷区広尾4-1-29 E407
TEL/FAX:03-5467-8779
Email:yoyo@fo1.itscom.net

⑤ 同上



① 矢野 豊久
やの とよひさ

- ② 1314 (関東事業支部)
③ 峰尾 武

④ (株)矢野商会

〒173-0031

東京都板橋区大谷口北町11-6谷口ビル1F

TEL:03-6805-0530 FAX:03-6805-0535

Email:yano.tsk.m@sea.plala.or.jp

⑤ 〒173-0024

東京都板橋区大山金井町38-3

TEL:03-6789-8835



① 徐 俊
しゅー じん

- ② 1315 (関東事業支部)
③ 中田 重克・峰尾 武

④ 誠品空間設計

〒200-086

中国 上海虹口区大連路1053号c303室

TEL:8621-3532-5600 FAX:8621-3532-5602

Email:xj_zone1@hotmail.com

⑤ 同上

新会員 紹介 賛助会員

積水ハウス(株)設計部大阪設計室 会員番号3217

〒531-6013

大阪市北区大淀中1-1-88梅田スカイビルタワーイースト13F

TEL:06-6440-3670 FAX:06-6440-3328

担当者:課長 前原 和美

マナトレーディング(株)

会員番号3218

〒153-0051

東京都目黒区上目黒11-26-9中目黒オークラビル5F

TEL:03-3792-7411 FAX:03-3792-7481

担当者:営業推進室室長 御所 文子

シーフォレスト(株)

会員番号3219

〒541-0054

大阪市中央区南本町2-2-2

TEL:06-6260-1200 FAX:06-6260-1188

担当者:代表取締役 梶原 憲司

総合学園ヒューマンアカデミー

会員番号3220

〒169-0075

東京都新宿区高田馬場4-9-9早稲田13時ホール5F

TEL:03-5389-3752 FAX:03-5389-2437

担当者:デザイン学科主任 平野 雄介

正会員 住所変更

九州事業支部

〒860-0844 熊本県熊本市上通町5-40

(株)コモドデザイン

鳥井 貴正

勤務 (株)アトリエノース

〒107-0052

東京都港区赤坂9-6-28アルベルゴ乃木坂405

TEL:03-6459-2390 FAX:03-6459-2392

自宅 〒248-0005

神奈川県鎌倉市雪ノ下1-3-4

TEL:0467-254-9980

長岡 貞夫

勤務 TEL:0422-43-5031

藤村 盛造

勤務 (株)デザインオフィスF&F

〒279-0012

千葉県浦安市入船6-5-1006

TEL/FAX: 047-353-3518

Email: sfujimura@river.ocn.ne.jp

賛助会員 住所変更

ヤマギワ(株)

〒104-0032

東京都中央区八丁堀4-5-4ダヴィンチ桜橋6F

TEL:03-6741-2350 FAX:03-6741-2351

今井 滋さんを偲んで

泉 修二

創立会員であり、かつては理事もされ、地方家具産業の育ての親として重要な人物の一人であった今井滋さんが四月十五日、87才で亡くなりました。名誉会員であり、年齢上からは天寿を全うされたように思われますが、残念なことに人生の最後の十二年の間、腰椎損傷によりベッドに呻吟の療養生活を余儀なくされたことです。大きな包容力を持ちながら繊細な心使いのできる人でしたから、元気であれば仕事と共に協会の発展の為に動いてくれたらうと返すがえすも残念な想いです。

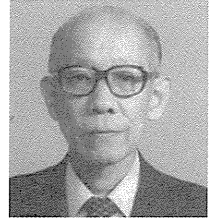
＜今井さんの経歴＞

今井さんは第二次大戦後、新制千葉大学として出発の年、卒業、当時高級家具の御三家の一つと呼ばれた高島屋所属の三好木工で15年間家具デザインとその製造技術を磨きました。彼が独立した1963年の時点では日本の木工業は従業員三人以下が50%を占める状況でした。しかも、敗戦の無一物の為駄物でも済んだ時代は終焉を迎え、質の問題への直面の時点でした。独立初期は企業、伊勢丹や信越ポリマーの嘱託、同時に学校の講師と云った形式や都のデザインコンクールで入賞などとデザイナーの一般的傾向とも云える道を進みますが、やがて、技術的な強さとデザインとのバランスの良さは青森、旭川などの木工指導所とのデザイン業務や産地企業との集合的な指導へと変わります。また中央職業審議会専門委員(旧労働省)として産業の基礎的構造に関わる機会も訪れ、技能検定委員も経験することになります。70年代には全国優良家具展を含め毎年の見本市審査・求評が30個所を越えています。

＜国井喜太郎賞受賞について＞

当協会では豊口克平、渡邊力両氏を始め2000年の賞終了迄に彼を含め11人が受賞されています。今井さんの受賞内容は「全国的規模で近代デザインの推進と普遍性のある家具産業の育成に寄与」とあります。だから当然なのかも知れませんが、業績リストを見て驚くことはデザイン指導企業数の多さと継続年数の長さです。葬儀会場で新潟県・加茂の社長とお話する機会がありましたが、「当社は29年診て頂きました・・」とお話でした。10年以上が10社、それ以下を加えれば40社を越えます。私には理解し難いのですが、デザインを個人の所有と見るよりは木工産業の近代化へと直結させたのでしょう。JIDの中でも特異な存在だったと云えましょう。

中部支部の名誉会員である堀内啓二さんと共に同クラスの仲間として追悼をさせて頂きました。ご冥福を祈ります。



JID news

企画・編集：本部広報委員会

お知らせ

■JID News、従来の紙面からWeb配信へ！

石川 尚

JID News(紙媒体)は会員にとって大切な情報源としての役割をはたしてきましたが「デザイン」が一般的になった今、会員に向けた情報だけにとどまらずITによる情報社会への対応が求められています。5月27日開催の第43回通常総会に於いてJID広報委員会は、JIDブランディングとして『広報(PR=Public Relations)活動の再構築/エンドユーザー(国内外部)と会員(内部)が繋がる広報活動ヘシフト』をスローガンに活動始動体制を整え、関連事項を推進すること宣言し、承認されました。

JID Newsは次号よりWebへの移行を行います。249号の紙面でもお知らせの通り、より多くの人へJID活動・デザイン情報をお伝えするために「JIDホームページと連動するJID News」を実施します。

● Web化移行スケジュール

252号(今号)→紙媒体JID News+Web試験版JID News

253号(以降)→Web版JID News+(申請者のみ紙媒体送付)

***紙媒体JID Newsを希望される会員は、同封の事前申請用紙で必ずお申し出ください。**

● Web化に際してのお願い

・Web化して魅力あるものにする為の提案を募集します。

JID News Web化に伴うJIDホームページのリニューアル、ニュースリリースも徐々に予定していますが、活動情報・ご意見・ご感想がありましたら、下記の広報委員会メンバーまでご連絡ください。JIDブランディングを担う広報活動の今後、皆様の益々のご協力を賜りたいと考えていますのでよろしくお願い申し上げます。

・広報委員会メンバー

担当理事兼委員長：石川尚・小野由記子

JIDweb担当リーダー：鳥井貴正

JID News “ ”：八十常充

関東支部広報：委員長 櫻井良樹、副委員長 小林雄二、菅野民子、安田恵、堀容子

中部支部情報：委員長 竹川好郎、太田一彦

関西支部広報：委員長 塚口眞佐子、村上信

九州支部情報：委員長 前崎彌生

No.252

発行日：平成23年6月30日